

第2回鹿児島市地域力再生検討委員会 会議概要

日 時：平成 19 年 9 月 5 日（水） 15：00～17：00

場 所：鹿児島市役所 東別館 9 階 特別中会議室

出席者：市民局長、市民部長、市民参画推進課長、地域振興係 2 人
鹿児島市地域力再生検討委員会委員 14 人（西村委員欠席）

1 開 会

2 意見交換

「テーマ」

- ① 町内会活動の現状と課題（継続）
- ② 地域住民が期待する町内会活動とは（継続）
- ③ 地域力を再生するために、町内会が果たすべき役割とは（継続）
- ④ 町内会等の地域活動において望まれるリーダー像・リーダーの育成（新規）

3 閉 会

会 長

- ・第2回鹿児島市地域力再生検討委員会を始めさせていただく。会議に先立ち、欠席届が西村光行委員から出ているので報告する。
- ・本日は、①「町内会活動の現状と課題」から③「地域力を再生するために、町内会が果たすべき役割」までを継続して意見をいただき、引き続き、新たなテーマに関し、さらに意見交換をさせていただきたい。
- ・「地域内の他の団体との協働」というテーマも後日考えている。既存の住民自治組織であり、町内会活動を通じた地域力再生という観点から、意見交換をしてまいりたい。
- ・意見を整理するため、テーマごとに進めさせていただく。テーマ①「町内会活動の現状と課題」について、ご意見をいただきたい。なお、このテーマに関しては、現状と課題に対する改善策も併せてお出しいただきたい。

城本委員

- ・第1回検討会后、会社でも町内会について聞いてみた。引っ越し直後の人からは、その地区の人がいきなり家に訪ねてきて、「町内会長に挨拶がない」「ごみ捨てするにも一応お金（町内会費）を払ってくれ」と言われ、けんかになった。町内会に入りたくな

い訳ではないが、はじめからそう言われると、入りたくても入りようがないという話を聞いた。

- ・町内会長へ挨拶に行くのは大切だと思う。僕も引っ越した時、隣の人に「うるさくなるかも」と言っただけで、そういうところももう少し深めていけたら、町内会といわず地域力も活性化するのはと印象を受けた。

会 長

- ・職場でも検討いただき、そういう状況がわかっただけでも次の展開につながると思う。その他、ご意見をいただきたい。山下委員。

山下委員

- ・実態調査資料では、町内会加入が60%、未加入が40%で、極端に町内会員が増えるとは思えない。なぜなら、人間の心理や世の中でいろんなトラブルが起こっており、町内会に入っていない人はずっと入らないという可能性は強いと思う。
- ・6割の加入者と4割の未加入者について、入っている方の活動、入っていない方の活動を二極分化し、どういう施策ができるのか分析することが大事である。
- ・県の選挙公報の配布もれなど、いろんなことをするにしても被害を受けるのは地域住民である。町内会に100%入るにこしたことはないが、未加入者にどういうサービスができるか、被害を受けない活動を考える必要がある。

会 長

- ・「資料2」の1から4ページに、前回の概要をまとめてあるので参考にされたい。岡本委員、どうぞ。

岡本委員

- ・実態調査報告を見ると、町内会活動もそれぞれ違い、町内会に見合った活動であってしるべきで、近所となりの関係がうまくいってれば、無理に行事をしなくてもいい。行事をするのは、コミュニケーションづくりであって、先の選挙広報の話のように行政の下請けみたいなことがあってはならないので、そこらの意識を変えないといけない。
- ・町内会は、隣同士の付き合いをよくしようということから始まる。自分たちで町内会を作ってきた人は、一生懸命加入させようとする。新しく入った人は、あまり付き合いたくないということもあり、そこらをうまく考えないと、何をしてもうまくいかない。
- ・なぜ、町内会加入をするのかということ、自分たちもよく考え、いろんな行事がある時もお互い理解しないと、町内会の一部の人はわかっているが、入っていない人には意味がわからないということでは困る。

- ・行事に参加するのが大変だとか、会合が多すぎるとか、それぞれの町内会の性格を自分たちで考えながら、どうしていくのか見直すのは単位の町内会である。
- ・校区単位というのも一つの方法で、町内会で行事をするのは顔を合わせながらコミュニケーションをとるといった目的しかないわけで、そういったのが活動の基本にあると思う。

会 長

- ・田原委員、どうぞ。

田原委員

- ・地域力には、町内会だけでなく、いろんな団体があると思うが、町内会はその核になる組織だと思う。
- ・「資料3」で会長歴5年以上の方は4分の1以上で、長い方は15年以上されている。これはある意味、役員のみなり手が無いという一つの結果かもしれない。役員が長く務めていい事もあるが、弊害もあると思う。
- ・20年前の町内会の果たす役割と現代の町内会の果たす役割は変わっている。社会的な活動も変わってきており、長く務めている方々の現在の社会環境等に対する意識改革が必要ではないか。
- ・町内会が果たす役割は大きくなってきているので、その辺（社会環境等）をしっかり把握し取り組まないと、自分たちの町はよくなるらない。
- ・町内会の事業も、前例主義というか、やるのが目的みたいになっている。昔と比べそれぞれのイベントの重要性も変わっており、町内会活動の目的に照らし見直さないといけない。
- ・町内会の加入率を上げようとする、転入者に悪い印象を与えるような勧誘があったりする。加入率アップが目的じゃない。加入率は町内会の活動が充実しているかどうか、そういうバロメーターで、いわゆる指標の一つである。
- ・町内会の人たちが、「入っていてよかった」「充実している」というのが大事で、そういうことを積み重ねた結果が加入率だ。それはバロメーターであり、客観的に自分たちとほかを比べ、加入率が劣っているというぐらいの把握はよいかもしれないが、そこに固執する必要はない。

会 長

- ・田上委員、どうぞ。

田上委員

- ・町内会の「量」、抱えている世帯数とか人口とかそういった問題と、「質」の問題もあ

る。

- ・人間関係がうまくいっている町内会は、トラブルも問題、課題もないが、トラブルが起こるのは大きな世帯で、一番の原因は役員の選考問題、二つ目は役員とリーダーの「質」の問題がある。
- ・広報活動など町内会便りにおいては、情報過多の社会だと情報が伝わらない限界的なものも一つの要因である。役員がお互いに共通認識と理解のもと、町民一人一人に浸透させていかないといけないという意識を持っていながら、マンネリ化もあり、非常に打破、打開策というのは難しい。

会 長

- ・その他にないか。茶園委員。

茶園委員

- ・実態報告書を見て、町内会長、役員手当が高いのを、はっきり言って驚いた。町内会役員をやったことのない者にはわからない苦労があると思うが、町内会に入っている方で役員になったことのない方は、この数字を見るとちょっと驚かれると思う。
- ・鹿児島は、労働者の最低賃金が日本で1、2位を争うぐらい低く、今回619円になるという話だが、若い方の所得は大変低く、夫婦で働いても生活が苦しく、子供が産まれてももっと苦しくなり、月3000円の新聞をやめたというお宅もある。報告書によると、町内会費が300円から1000円以上と幅広いが、会費を半年分とか1年分まとめて回収に来られると、月3000円の新聞代を払えない人は、12000円と言われると、生活が赤字になる。若い人の給与もこの先飛躍的に伸びるとは思えず、若い人が入らないという意見があったが、そういう経済的な理由もあると思う。
- ・鹿児島は校区町内会、校区PTAがあり、地域と子どもと保護者と非常にちゃんとしているが、70代の男性や中学生をお持ちの母親など、住んでいる場所は様々だが、「正直言って煩わしい」と言われる。
- ・町内会の必要性は、地域のコミュニケーションももちろん必要だが、現代では災害時の協力体制をつくるための土台づくりが一番必要だと思う。いざという時に、みんながまとまるような土台をつくる、そこが今の町内会に求められていると思う。
- ・かたくなに今までのことをずっと続けていくことは、ほとんどメンバーが変わらない地域はそのまま続けても構わないが、新しい方がどんどん入ってくるような地域は、ニーズに合わせ簡素化していいと思う。

会 長

- ・ありがとうございます。岡本委員。

岡本委員

- ・実態調査の9ページ「組織はどんなのがありますか」では、あいご会がトップである。要するに、子どものつながりで町内会に仕方なく入っているというもある。そういうことからいくと、町内会とは女性と子どもを中心としたものだと思う。
- ・町内会役員がどの程度一緒になってくれるかは、チームワークを伴い会長一人では何もできない。そういったものをうまく活用するには何年か経験しないと、知名度だけではやれない。
- ・町内会にもリーダーが必要と思うが、なぜ必要なのか理解しないと、輪番制になってしまう。やはり、町内会の活動のあり方というのはそれぞれで考えないといけない。
- ・防犯灯の必要性とか、ごみステーションの問題などの理解を深めていくのも、町内会の大きな仕事だと思う。
- ・それぞれの町内会において、なぜ町内会が必要なのかというところから取り組んでいけばいいのではないか。加入率は、上げようとすれば強制しかないが、そんなもんじゃなく、必要性を認識しているかどうかである。

会長

- ・各委員から、新規加入者の問題、加入率を上げることよりサービスに比重を置いた方が理解を得ることが可能ではないか、役員の問題、校区単位での連携のあり方が活性化するためには大事ではないか、20年前と現在の役員の意識改革、社会経済環境の変化に町内会がどう対応していくか、だからこそ、町内会の役割は今重要になってきていることの見直し、町内会の「量」と「質」の問題、役員の選考に絡む問題、リーダーとしてどういうことを求めるのか、広報活動が非常に大事ではないかという問題が出た。
- ・町内会が必要な理由はどこにあるのか、そこをきちっと理解する手立てが大事で、特に災害時の土台づくりというのは町内会の一番大事なところではないかという意見をいただいた。その他にないか。中村委員。

中村委員

- ・町内会といわずいろんな団体と協力し、いろんな活動をいっぱい取り込んで、たくさんの方が参加するけれども、その中心となる企画運営はいつも同じメンバーである。
- ・茶園委員から地域と子どもと親との密着度が強いと言われたが、PTAの立場から、やはり子どもたちは地域で育てていただきたいし、わが子もよその方々に、自分も他の子どもたちに目を向けたい。声をかけると煩わしい方々も多く、なかなか理解していただけない方が多いので、やはり意識改革は大事だと思う。
- ・町内会の総会に出る方はいつも役員だけで、役員のほとんどが輪番制で毎年変わるが、次の年と前の年の引き継ぎの方だけしかほとんどいない。

- ・皇徳寺にはかなりの人数がいるが、一部の方々の運営になっており、いろんな活動をする中で盛り上げようとする力はあるが、それが浸透するにはやはり難しい。

会 長

- ・その他、前回の意見を絡めて、井前委員。

井前委員

- ・社会教育学級の講師として、7月に始良町重富の町内会長に「私の町のまちづくり」という話をしていただいた。始良町は2年ほど前からごみの分別を非常に厳しくされ、ごみステーションで毎朝交代で監視をする中、町内会に加入していない方が持ってこられた時に、「町内会でごみステーションの管理や監視をやっているから、入ってもらえませんか」と毎月そういうふうにして、2年前は7割にも満たなかったが、今は8割を超える700世帯のうちの600世帯が加入され、加入率が増えたということで参考になった。ごみの分別で、加入率、町内会の組織の強化に役立ったという部分で参考になった。

会 長

- ・その他、よろしいか。河原委員。

河原委員

- ・10年ほど前に班長をし、また輪番で班長がまわってきたが、町内会長の班長に対する気遣いが以前と大分違ってきたと思った。班長は班ごとに、より小さい単位、回覧板の単位であったり、ごみステーションを単位としたところが多く、その班から班長になる人が輪番ででも選ばれなかったら町内会は崩壊してしまう。そういうことを10年間の間に痛感されたと思う。
- ・班長と班の仕組みがなくなったら、町内会は崩れていくと思う。班は日本の地域の特徴で、そういう形で大正、昭和からずっと地域で運営されて来た。そういう仕組みがあると隣近所の挨拶がしやすい。近所づきあいも、そういう仕組みがあるからこそできている結果で、日本の近所づきあいを支えているのは、町内会のそういう機械的な仕組みだと言える。
- ・始良町では、防犯灯の電気代は町内会が負担するが、町内会に入っていない人も防犯灯の恩恵を受けるから電気代を集め、ごみステーションの容器が壊れたら入っていない人にもお金を出してもらおう。より小さい単位で恩恵を受けているものは平等に負担し合おうという仕組みがあれば地域は維持される。おそらく災害時ではなく、日常的なそういう見えない仕組みがあっとうまくいくと思う。

- ・裏返せば、そういうことを町内会や班ではなく役所がやれば、ますます町内会の必要性はなくなる。その分町内会費を減らしてもいいわけで、町内会の仕事を役所がサービスとして行くと、地域がまとまる必要性がより少なくなっていく。町内会の役割や市民権をもっと高めようとするには、役所のサービスをもっと切り捨てたらいいいわけで、そうしたら、みんなで何とかしようとなるのがまだ期待できるかなあという状況であり、そんな所に町内会の存在意義があると思う。
- ・城本委員の意見や実態調査資料にしても、町内会には全世帯が入ることが前提になっているが、その前提は、実際はできないと委員皆さんが発言されている。役員にしても全世帯入ることが前提になっているから、挨拶に来ないということになるが、実際、入る必要性を感じない、入らなくてもいいと思う人も少なからずいるわけだから、そのギャップで衝突したりする。全世帯加入がなくなったら町内会はいいとは言えないが、実際の運営上で入らない人がいても、それはその人の選択であると思う。
- ・町内会がどういう役割を果たすのが期待されるのか、町内会の役割が非常に重要になっていると、当然のように皆さんや市民参画推進課、役員をやっている人たちは思っているけれども、本当にそうだろうかと疑問に感じる。私個人としては、隣近所づきあいを支えているのは町内会だと思うから重要であり、町内会はなくならないと思う。
- ・ごみステーションや防犯灯にしる、地域全体の面としての区域を関係しているのは町内会以外のどこがあるのかと。だから、防犯的な環境にしても、交際環境にしても、全体に対して管理している責任を負っていると住民も何となく感じているから、とりあえず町内会に入る。それであれば、もっと、町内会の存在意義がクローズアップするようなリーダーに対する助言とか、いろんな活動問題とか検討されればいいと思う。

田原委員

- ・河原委員が、個人的には町内会の役割が高まっていくと言われたが、私もそう思うが理由が違う。もし、自分たちの町のことを自分達がしないで、全部行政に任せるとき、町内会費では済まないぐらいの高コストになる。自分達の町のごことは、本当に、自分たちの方がわかっていて、他の所の方がサービスに来ると予算がかかる。
- ・今、小さな政府、小さな行政を目指すという流れになっており、自分たちが求めている公共サービスと提供される行政サービスの差異は、それこそ、地元の力、NPO の力とかいろんな形で埋めるような努力の時代になってきている。そういう意味では、町内会の果たす役割は大きくなってきており、地域力が無くなり、すべて行政に頼るようになると、もっともっと高コストになり、自分たちもなおさら負担しないといけない。
- ・特に防災の時など、どこの誰が高齢者、障害者で、どこに住んでいるということを役所の担当者より、自分たちが知っていれば済むわけで、衛生面にしても、身近な所に

ごみステーションがあれば、他から来るより自分達で綺麗にすればいいわけで、社会として最適な状態というのが、地域力であり、そういうのを求められている時代だと思う。

岡本委員

- ・もともと町内会は任意団体で、入ろうが入るまいがいいわけで、今まで入っていた人が出るときと、新しく入る人の状況と違うわけで、それぞれ入りづらいところは、何なのかというのがある。
- ・町内会の加入世帯の中には、会費免除世帯も結構多いと聞く。それぞれ町内会が成長するなかで、高齢化で何も出来ない町内会もあれば、若い世帯ではいろんな活動が出来るというのもあるが、一番大事なものは、高齢化社会の中で何かあるときに、手助けができるのが町内会だとよく言われている。
- ・高齢者が増えると、高齢者同士で助け合わないといけないという現状もあり、身近な人たちが目配りをしておけば対応ができるから、管理型の自治会もあれば、活動が盛んな町内会それぞれ違うが、地域にはこういった組織が最低限必要である。
- ・一方では、町内会に入っていない人達はどのようにするのか、置いてきぼりかということになるから、「町内会の会員になってください」「200円の会費ですけど、100円会費で入ってください」といった対応をしている町内会もあるようで、それぞれ知恵を出し合わないといけないと思う。

会長

- ・地方自治法第260条の2の地縁による団体ということで、町内会、自治会はGHQから解体されたものが出来上がってきている。1991年、平成3年に地方自治法の改正で、法人格を持てるようになり、国でも、行政の単なる補完ではなく、その必要性というのが補完的な機能をどれだけ高めるかなど、各地域の大きな課題が存在していると思う。
- ・町内会という名称は一緒だが、規模、高齢化率あるいは地域の世帯が違い、一律にこうだということも決めかねるけれども、現状と課題と改善策も併せて意見を伺った。時間の関係もあり、住民側は何を期待しているのか、役員側はこういうことを思っているというのが、今、意見として出てきたが、そこに話を移したい。吉見委員、どうぞ。

吉見委員

- ・ちょっと別の面から、一時期班長をしていた伊敷団地の事例を紹介する。西伊敷小の通学路になっており、柿の時期、子供達に柿を取らせる。団地にいる子供達は、色づいた柿を見ると「そろそろ柿なったね」って声掛けるから、私がちぎったのを拾わず

といった、そういう一つの関わり方。

- ・ もう一つは、木が好きで、近所の木を見て「何の木ですか」といった木の仲間、通うたびに聞いたり、しゃべったり、歩いている途中で話をする。
- ・ もう一つは、お年寄りに私のところのかぼすの実を夏は全部採らす。かぼすは200個ぐらい実がなり、私が居る時は採ってあげ、また、勝手に採ってと言っているから、私は四丁目だが七丁目のおばあちゃんが毎日来るといふ、そういうつながりもある。
- ・ もう一つは、隣の土地が空いていて、犬に引かれて空き地に来るから、綱を持った人のデート場所になる。3、4人夕方と朝と集まる犬が取り持つ縁。
- ・ 近所の子供も通学路だから、柿採りに来たり、梅採りに来る。向こう3件両隣だけじゃなく西伊敷小に通う人たちが来るし、緑ヶ丘中学校に行った子ども達が部活で通ることがあり、昔、さくらんぼを採ったことを思い出して寄ってくれたりというコミュニケーションもあり、町内会というフォーマルなものに頼らない方法もあるということを紹介する。

会 長

- ・ はい。その他。河原委員。

河原委員

- ・ 実態調査で30代の町内会長や女性の会長が増えたとあるが、全体の傾向からは異例で、そういう町内会の「期待する町内会活動とは」「町内会の果たす役割」など、どういう活動をしているのか調査をしてみてもどうか。60、70代の10年もしている会長が思っていることと、30代や女性が考えることとは違うだろうし、もっと実態を知るためにこの調査が活用されないともったいない。それがわからないと自分の経験以上の深みを持って議論するのは難しいと感じる。
- ・ 市民意識調査をこのまま報告書として出してしまうのか。使えないと感じる。せっかく加入していない人も抽出できているのに、その人達がマンション住まいか、一戸建てか、一人暮らしか、家族持ちなのか、また、そういう人達が町内会についてどういうふうに思っているのか、そういう議論の素材になるような有用なデータを出すのに、この調査結果をもっと使って欲しいし、もっと様々な分析を加えてほしい。

岡本委員

- ・ 年齢の高い町内会長は、割と65歳からが多いということだから長年続いている。若い人達は、1年交替ぐらいでないと続くはずがない。やはり、地域性もあり、1年交替を簡単に変えられると困るというものもある。
- ・ 長く会長を経験する人は、組織そのものも結果的には長く続くわけで、町内会長一人

がんばっても、町内会は長く続かない。

- ・新しい団地など、若い世代だと当番制にしないと組織ができないといったこともある。そうした中で、だんだん年齢が上がっていくところではお願いがしやすいし、町内会活動がうまくいっているところも結構あるようである。

河原委員

- ・誰も役員をする人がいないということで、町内会が休止になってもおかしくないのに、あえて輪番制であっても会長をする。それは男性がほとんどですよ。その中で女性がたまたました時にどういうことを考え、どんなことをしているのだろうと思う。若い人達の意識感覚からすれば、「引き受けません」と言って休止になってもおかしくない状況だから、そういうところを大事にしないといけない。

会 長

- ・はい。岡本委員。

岡本委員

- ・自分が住んでいるところから理解しないと、比較が出来ない。自分の所と他の所を比べても仕方がないが、他の町内会がアドバイスをしてくれるとメリットもあるし、そういったことを地域にも広げていかないといけない。だから、町内会はまず何か必要なかということがわからないと、そこから先に進まない。

会 長

- ・城本委員。

城本委員

- ・「町内会に入らないとごみを出せない」という、日常生活まで町内会が関与するなら、引っ越した時点でもポストに毎回町内会のチラシが入っていなければいけない。それが引っ越した後にいきなり言われても、ということなのという感じになる。町内会は強制加入でなく任意で入らなくてもいいのなら、ごみを出すのは構わないのではないかな。ただ、掃除をしないといけないということを若者は知らない。それだけ地域と密着して育ってきたわけではないから。
- ・僕が住んでいた所は宿舎で、町内会というか、周りと密着して生活してきたから、ごみを捨てる場所はきれいにしないといけないということを知っており、そういうのが染み込んでいる子ども達だったら、大人になっても町内会に入らないといけないと頭ではわかっている。もし、一軒家で親が町内会に入っている、子どもたちに何も言

わず、手伝いもさせないで大きくなった子どもは、町内会の必要性はないという認識になると思う。そこも若者が町内会を知らない理由であるという気がする。大きくなってから学べと言われても学べないこともあるし、小さいころじゃないと素直に受けられないこともある。そういうところが、町内会に若者は入らないというより、活動内容がわからず入れない状態ではないか。

田原委員

- ・若い人は、町内会に期待することはあまりわからないと思う。町内会が何もしてくれなくても生活できているから。そこに住んでいる人は、町内会に入らないとごみステーションにごみは出せられないという言い方は間違いだと思うが、何もわからずにごみを捨てている所は、地域の方々が順番でいつもきれいにしているわけだから、当番をお願いできないかというのは当たり前だ。
- ・行政サービスと思っていたものが、実は地元の人たちがいろんなことをしていることが多い。実際、地域住民が期待する町内会活動とは、大規模災害時に発揮する力や防犯、子育て、教育に関わることなどだと思う。
- ・町内会員じゃない人も地域住民であり、この町内会員じゃない人が町内会活動に期待するところは、広報活動だと思う。町内会の会員じゃなくても、地元でどういうことが起きているか情報を発信してほしいし、そういうのを求めているだろうと思う。

永山委員

- ・ボランティアの意識をどう地域に根ざしていくかという社会福祉協議会の会議で、ボランティアの人たちに言わせれば、地域の受け皿が見えず、地域につないでいけないという話をされていた。だから、もし行政が地域の人材を育てるなら、地域につながるまでやってほしいと言ってきた。
- ・町内会の魅力が話題になっているが、鹿屋の串良にある柳谷町内会に視察に行っただけでも、豊重会長はいろんな活動を次々に産み出し飽きのこない活動をされている。やはり役員の中でも次々に編み出すことで、みんなが、次このことに、また、次このことに頑張ろうという意識が出てきて、自立している町内会ということで全国制覇されているんだと感じた。やはり固持していく、守っていくのと、次々に新しいことを作り出していくことのエネルギー、新しい風を入れながら町内会をまわしていくというエネルギーが町内会にも、地域づくりにも無くなってきていると感じた。
- ・町内会が果たすべき役割は、確かに災害、防犯、防災の面ではなくてはならないところで、いつ災害が起こるか日本全国そういう状況にあり、町内会自体、自主性を欠いているから、結局、行政で災害時の対策を練ろうとなっているけれども、元来は町内会がやらなければならないことができなくなってきているから、行政がやらざるを得

ないというもある。

- ・地域力を再生するためには、河原委員も言われた、ある程度のものを地域に戻す、要するに行政サービスを切る状態にして、地域が本当に必要だと思わせる部分をつくっていくのも一つの手法であり、地域や今の町内会の力ではとてもできなくなっている状況を、NPO とかが調整して、そこに力を張ってやっていくというのも地域力再生というところにあると考えている。もう一つの力をとった時に、やっぱり行政の力もつくような部分もあるし、いろんな部分で整合性をとるとなれば、もっともっと時間が必要で、いろんなことをやりたい人が入っていきやすい地域をつくっていく、そういう面ではもう少し行政の力を反対に借りないといけないと感じている。

会 長

- ・田上委員

田上委員

- ・町内会の原点は、「人間はひとりでは生きられない」「みんなの力で何とかしよう」という意識であり、これがなくなったら崩壊の一途だと思う。
- ・私の町内会の敬老会を一例に言うと、役員を中心に対象になる敬老の方々を拾い出し希望をとると、「都合があって出られない」「今年はぜひ出たい。でも車がないので出られない」というような回答があり、役員は総出でできるだけ力を出し合ってその方に対応し、みんなの力で敬老会に参加していただいて、労をねぎらっている。そういうことが町内会の大きな仕事であり、役員の役割でもある。町内会の役割は、人たちが盛り上がって、気持ちよく生活できる地盤をつくってやるということだと思う。
- ・NHK で地域力とはなんぞやという番組があり、地域の人達が協力して災害を小さくする力、これを地域力と定義している。私はもっと広い意味で地域力を考えるのかと見ていたけれども、地域に住んでいる人たちの命を大事にしよう、お互いに助け合って生きていこうという力だと思う。
- ・私の町内会でも、他の町内会でも、防災訓練とか、防災に対する認識を高めようという研修をしているけれども、うちの町内会でもいろいろ手だてするが、認識が高まらない現状だと思っている。自分の命は大事にしたいが、他人の命は考えていないという認識に立っているような気がするので、できるだけ町内会ではそういうものを盛り上げていく力になっていきたい。

会 長

- ・ありがとうございました。井前委員。

井前委員

- ・合併前、旧町から行政事務連絡員の嘱託費用を大体50世帯ぐらいで、年間50万円程度頂いていたが、合併と同時に段階的に減っていき20年度から0円になる話を町民に伝えたら、町内会の活動ができなくなると一番心配された。校区公民館連絡協議会を年6回開き、いろんな調査をした結果、町内会費、会長の役員手当が50世帯の所で30万円という所が半数ほどあり、それを3分の1程度、10万円程度に抑えることから始めたら、30万円のところは10万円、15万円のところは5万円程度に、ほとんど一斉に前倒して役員手当を下げていくことになった。
- ・町内会長が1年交替になっている所が多いが、長く続けられている町内会長の所でユニークな活動をしている。市街地の皆さんには奇異な感じもするが、厄払いやナンコ大会を町内会でされている。どうしても奇異に感じていが、やはりコミュニティの連携ということから、地域の実態にあわせ取り入れているということであった。また、天璋院篤姫の放送にちなんで、町内会でなたまめの生産をされていることから、大学の先生を呼んで篤姫となたまめの歴史的な検証といった活動もされていた。財源についても、ジュース等の自販機を町内会で設置し、年間22万円ほど収入があるということで、本年度から2台に増やすという話も聞いた。

委員

- ・売り上げではなくて、利益がそんなにでるのか。という声あり。

井前委員

- ・すべて管理は設置した会社がやってくれる。

委員

- ・利益が。という声あり。

井前委員

- ・そういうことや、旧町時代は道路の愛護作業で10万円ほど補助があり、また河川敷の草刈りにも補助があったが、合併で補助がなくなるにつれてやめるところもあったけれども、今はボランティアとして活動されているところがある。

会長

- ・ほかに意見もあるようだが、テーマ3と4「地域力を再生するため果たすべき町内会の役割」と「リーダー像」というのが先程から出てきているので、一括して時間を充てていきたい。

- ・「地域力を再生するために町内会が果たすべき役割とは」については、「資料2」の6ページに概要をまとめてあり、本日のテーマ4「町内会等の地域活動において望まれるリーダー像・リーダーの育成（新規）」とあえて書いているが、この観点も含め審議いただきたい。城本委員、どうぞ。

城本委員

- ・リーダー像とかリーダーの育成について、ジュニアリーダークラブ「コアラ」とか「トマト」で活動して思ったのが、リーダーをやってきた人は、それなりのプライドと誇れる自信があり、長年やっているだけに、俺が正しいと後輩たちに言ってしまう。そういうところを見ていると、リーダーとは、柔らかく時代、時代を流れていかないといけないというものもあるのではないかと。後輩たちから見れば、その子が言うのは確かに正しいけれども、一人強いリーダーができてしまえば、他のリーダーになりかけている種もつぶれてしまう。それが町内会ではどうなのかということはわからないが、長年やっていた会長は確かにその町内会のことを知っているから、いい案が出ると思うが、若い目がどこまで育つのか気になる。

永山委員

- ・町内会長を長く続けると、ねばならない的になり、新しい人たちを取り入れた部分ができない。新しい役員が意見を言っても、受け入れてもらえなくなるから、もう何も言わなくなるというのが現状である。そうすると、町内会そのものが面白くなくなり、会長はねばならない論で自分の力をいっぱい出すけれども、町内会にとって目新しいものじゃない。
- ・地域活動において望まれるリーダー像がどういうものか、どこでか考えるか、どこが示唆すべきか、そういうのを活動しながら思うところで、かつ、動いてくれる人がいい人だと動かない所ではそういう部分もあるが、なかなか望ましいというところまではいかないと思う。
- ・三島村の区長が「この島をどうやって次の世代につなごうか、私たちは一生懸命だ」と言われた。私は吉野地域で地域づくりをやっていると意識していたけれども、この吉野を次の世代につなぐために、どう地域の人たちと話し合う機会をいっぱい持っているだろうかと考えた時、全然持っていない自分に気がつき、地域にそういう基盤もないこともわかった。
- ・小さい子ども達が町内会の中で本当に活動する場があるか、うごめくところがあるのか、活かされている場があるのかとつくづく思う。そういう子たちが育っていけば、地域のリーダーとして育っていくと思うが、そこらの活用が子ども達のリーダー像を育てていき、もう一つ飛躍して若い世代を取り入れていくことを町内会が本当に意識を持ってい

くべきで、そこらに向かって示唆してくれるようなものもあっていいと思う。

田原委員

- ・「地域力を再生するために、町内会が果たすべき役割」とは、広報活動も必要だと言ったけれども、非会員を取り込むような活動が今後は必要だと思う。
- ・「望まれるリーダー像」とはそれぞれあると思うが、町内会ではそれなりのリーダー像じゃないと会長になれないのかというと、なり手がいないところに批判が出るわけで、何も一人のリーダーがすべての要素を備えるのではなく、複数で補完し合うような、自分の足りないリーダー的な要素を他の人たちに補ってもらおうような発想でないと、なり手が少なくなっていくと思う。
- ・行政によるリーダー養成の機会が非常に必要だと思う。長くされている方ほど、前例主義とか、社会の変化に応じた町内会活動の発想は必要だろうし、新しい人もそういうところで勉強する機会をつくっていただきたい。その時、町内会のリーダー一人ずつを寄せても、帰ると町内会に一人だけであり、できれば複数の方々が受けられるような研修と、リーダー養成の時には、他の町内会とのディスカッションをする場があれば、自分たちでは考えられなかったような活動が参考になると思う。

会 長

- ・ありがとうございました。中村委員、どうぞ。

中村委員

- ・個性的な今からの時代、PTA 会長とか役員を選ぶ時に、一人じゃなくたくさんの中から選んでいきたいというのがあるが、私もまだ町内会の一員でなかなか仕組みがわかっておらず、自分が活動しているところはわかるけれども、会員であっても全体が見えていないという方が多いと思う。恥ずかしいことだが、防犯灯にしても、町内会が負担しているんだとこの頃気がついたが、そういう無知な人たちがかなり多いので、たくさん若い人たちも取り入れた活動をどんどん広げ、意識を持ってもらい、町内会をまずわかってもらう。その中で疑問を持ったり、リーダーとかは育っていくと思う。
- ・町内会の総会に出ても、ある程度の年齢の方々の話は出るが、若い人たちはその話を聞いても全くわからない。だから、まずは町内会がどんなことをやっているか、みんなに知ってもらうことから始まる。そして、一人でも多くの人賛同を得て参加してもらい、一人ではなく複数の方々がいる程度上がってきたところで、リーダーを選べばと思う。
- ・うちの町内会長は長い間やってきたが、どうしても一方的な考え方の中で若い人の意見が取り入れられないとのことで今度交代をしたけれども、長くやっている方はそれなりの経験があるのですばらしいと思うが、若い人たちがどんどん増えている中で、そうい

う風を受け入れてくれる方がぜひリーダーになっていただきたい。

会 長

- ・柳委員。

柳委員

- ・例えば、ごみは町内会員じゃなくても捨てられますよね。

委 員

- ・市民であれば、という声あり。

柳委員

- ・いろんな人の意見を踏まえながら、それを合わせてよいものを作り出して行けるリーダーは、企業でも組織でも町内会でも同じではないかと思う。

田上委員

- ・直接関係はないが、窪島部長にお聞きしたい。実態調査の結果をどこまで下ろしていかれる考えか。リーダー育成、リーダー研修等にも使える資料ではないかと判断するけれども、どのような考えか。

窪島部長

- ・全町内会に配り、町内会長ほか、役員の皆さんにも見ていただき、参考にさせていただければと思っている。当然行政においても各課に配布する。

田上委員

- ・かなり下部のところまで下ろしても構わないという資料として、取り扱っていくということか。

窪島部長

- ・大いに活用いただきたい。

安藤委員

- ・リーダーとは町内会の各部（組織）にもいろいろ協力し、活動もやっていく。なるべく人の意見も聞いていくのがリーダーだと思うが、やることもしていかないといけないと思う。

- ・リーダーの選び方が問題になっていたが、私の所は280世帯で会長を今までは選挙であれば一人選んでいた。老人会の選挙の時、3人書いてもらい1番目が会長、2番目が副会長、3番目が会計とした。「しない、しない」と言っているけれども、1番か2番に上がれば、280人の選挙で少々のことは犠牲にして頑張ってみるということが人間じゃないかと思うから、来年はそうしたいと思う。
- ・なり手がいないというのは、リーダーを譲る勇気がないととらえている。35年以上、25年以上とかの報奨制度も必要かもしれないが、足をひきずりながらしておられるリーダーとかいる。「あの人はやめればいいのに」というような人もいるが、鹿児島の人によさなのか、面と向かっては言えないから、10年一区切りがいいと思う。そして、リーダーだった人は口出しするのではなく、側面的に援助し、参加していくことが、リーダーを育てるといえるか、時代を譲る役目だと考えている。

岡本委員

- ・実態調査で、町内会長歴1、2年が約64%で、長年している人は限られ、絶えずリーダーは交替していることがわかる。
- ・選出について、委員会等を設けて民主的にやっておられるが、長老になるとなかなかやめないというのもあり、仕方なく選考会となることもあるが、どれがいいかは、そのリーダーだから、この人が適任だよと住民が選んだ以上のことはない。
- ・高齢化社会で町内会に高齢者が多いのに、若い人がリーダーになっても年寄り反発したりするから、とてもじゃないがうまくいかない。だからコミュニケーションといふか、年寄りも若い人も一緒にできることをしながら、年寄りのことを考えていくのもリーダーである。
- ・町内会ができて、問題がたくさんある時には、皆が一所懸命関心を持つが、安定して、もう十分だと思うと逃げの姿勢になるというのが現実ある。だからリーダーはどうあるべきか、それなりに自覚してもらえれば、ただ輪番制で回ってきたから仕方がなくやるということではリーダーじゃない。民主的かどうかわからないが、委員会等を設けて選出された方が町内会の活性化につながるのではないかと思う。お互いの意見がある程度まとめられた方がリーダーとなっているから、それなりに自覚を持ってもらうという位置づけができ、そういうことが初段階ではないか。「立派なリーダーですよ」と言われる方も、中には足をひっぱる方もいる。若い方々の取っかかりが町内会の活性化につながるから、そういったことも町内会が自覚していかなければいけないと思う。
- ・あいご会活動や青少年育成活動等、いろんなことが町内会に絡んでくるが、それをよく考えるリーダーは何年かしないと、1年2年ではできない。もう嫌なことをするよりは楽をして早く終わろうという発想が多いようで、町内会は永久にあるが、何年しかできないと決めている町内会もあると思う。

会 長

- ・ありがとうございました。河原委員。

河原委員

- ・実態調査で、町内会長の会議の開催が多くびっくりした。20ページの市主催の会とその他の会と合わせて、町内会長だからそれだけの会があるのか、付随して様々なその他の会が充て職で増えるのか。市主催の会合だけでこれだけ多いということは、現役世代の参加も減るのに、その割には50代が会長になっている例が多く、もう少し詳しく分析してほしい。50代はサラリーマンで現役だから、60代、70代でないとこれだけ会合が多いとできない。人がうまく回転して世代交代しても、引退した人しかあてにできないということになれば、リーダーの可能性をつぶしてしまう。だから、個人的な意見だけど、役所へ行く会議を思い切って減らすなど合理化しないと、また、そうすることにより町内会活動やリーダーの幅は広がると思う。

会 長

- ・ありがとうございました。

岡本委員

- ・いくら言っても、役員のみなり手が無い。どこもそうだ。立候補してくれれば一番いいが。

委 員

- ・手を挙げきらんと思う。という声あり。

岡本委員

- ・だから、きっかけがいる。

永山委員

- ・手を挙げる方は、結局物差しで選んで、させたくないというものもある。

城本委員

- ・リーダー研修会は市の教育委員会とか、県の教育委員会で年に1回2回は計画されているが、それを知る人が少ないから出席も少ない状況が出てくる。

会 長

- ・時間が押しているが、今日は4つのテーマを一通り通っていただいた。

毎回、皆さんの認識が町内会の現状と課題となると、会を重ねるごとに段々、段々広がって深まっていく。問題がかなりあるのはわかった。このことを委員会として、どう活性化に結びつけるかが最終的な方向性になる。

- ・ 共通意見は、実態調査のデータをもっと活用すること。これだけのデータの資料を持っていることは、ここにヒントの山があるということ。これだけ厚いと読みきれないので、もう少し要約版にして我々が資料として活用でき、使いやすくすること。それと同時に、基礎調査もまだこの中の条件としては必要で、河原委員の言われた、60代、70代ぐらいまでのリーダーと、30代や女性のリーダーがいるところとどう違っているのかも含め、委員会の材料として少し精査してもらおうと具体的な話になっていくと思う。
- ・ 町内会長は高齢者という風にターゲットが段々絞られ、ベテランのリーダーの話に修練されていくという話になるが、多様化している社会では会議に出ることが、働いている世代の多いところでは、1世帯から出るにしてもなかなか難しく、会議の開き方、回数あるいは方式も、あえて活性化を使うが、活力を生むためには大事な視点ではないか。
- ・ リーダー研修会も、例えば、行政のリーダー研修会は普遍的な研修会、広く網をかけた研修会になってしまう。私達の地域はこれだけの課題を持っているから、もっと絞り込んだ講師派遣ができないか、行政とタイアップして解決に持っていくことは、今回、提案の意義とか形になると見ている。それぞれの特性に応じた課題解決にどう持っていくか、ある意味では、リーダー研修会の講師選定が非常に重要になってくると思う。
- ・ 研修会に複数のメンバーを送り込むことは、自分が帰ってからの相談相手や確認が一人よりは二人というのが非常に大事ではないか。その辺は予算の問題もあるが、いろんな知恵を出せるところではないか。
- ・ 町内会、子供会活動の位置づけや広報、PRの問題、それから今私達が議論しているのは、災害のない平穏時の町内会のことだが、この会議の直前に大きな災害があったりすると、みんなが住民の安全・安心、どう町内会をキープしていくかと意識も変わっていくと思うので、いろんな事例を、町内会で起こりうるということを含めて話していくことが大事ではないか。
- ・ 田上委員が言われた、人間は一人では生きていけない、町内会の現状の中でどういう人間関係を築いていくかというNHKの話があったが、自分たちの地域をもう一回認識することが大事だ。
- ・ 若い世代の問題で、参加型でなくて参画でいい。参加と言うと、なんか行動をして、時間を拘束されることになるが、参画とは提案したり、アイデアを提供したり、参画の中の意思決定に関わっていくという参加方式もある。
- ・ 今まで2回、共通したテーマの継続と今日はリーダー像という新しい狙いを出したが、大体共通することが見えてきたので、第3回目は今日言ったところをもう一回事務局と精査し、また皆さんの方からこういうところをもう少し深めてほしいとか、少しこの情

報が欲しいとかとすることをいただき、委員皆さんにフィードバックしていく形で進めた方が、またテンポがアップしてくると思う。

委員

- ・石田尾会長へ提案すればいいのか。という声あり。

会長

- ・私でも、事務局でも構わない。事前にいただいた方が、いろんなデータの提供もでき、心の準備もできるので、そんな形でどうか。

田原委員

- ・ぜひ取り上げてもらいたいものが二つある。一つは、町内会長の出方が多いということで、この会として縮小する方法を提案できると思う。例えば、消防や衛生など町内会長への出席要請をもう少し整理してほしい。
- ・もう一つは、町内会で自動販売機による収益があること。私も串良町の柳谷公民館は行って話を聞いたけれども、経済的に自立を目指してるところが面白かった。最初は堆肥を作り、自分たちのオリジナルブランドの焼酎をつくり、そばを食わせ、焼酎を売って益金があり、町内会にお金があると活性化すると思う。それだけの活力があれば、自分の所だけでいろんなことができ、町内会長の費用30万円が高いという話もあるけれども、裏を返せば120万円だとなり手が多いかもしれない。それぐらい収益がある町内会ができる可能性が知恵を出せばあるわけで、そんな経済的な自立できるようなテーマにしていきたい。

会長

- ・今のような意見も含め、こういうことも次回折り込んでもらいたいとか、少しフォーカスを絞っていかないと、1回、2回、貴重な意見をいただいているが、毎回重なってなかなか先へ進んでいないので、具体的な話へ少し絞り込み、そのために情報をいただいたり、データを提供していただいたりして、ご発言、ご意見をいただきたい。あとは事務局へお返す。

事務局

- ・熱心な議論ありがとうございました。次回はスケジュールどおりだと11月下旬になる。具体的にはご提示できないところだが、早い時期に調整をさせていただきたい。会長からもあったように、次回のテーマ、要望等については事務局にお寄せいただきたい。

会 長

- ・時間も大分押したが、皆様方の十分なお協議に感謝する。

以上をもって、第2回地域力再生検討委員会の議事を終了させていただく。長時間ありがとうございました。